

# エミレーツ戦略研究調査センター (ECSSR)

たか はし り え  
高 橋 理 枝

- はじめに
- I 組織の概要
- II 主な事業
- おわりに

## はじめに

エミレーツ航空の発着や積極的な観光推進政策のおかげで、日本でも今やドバイはトランジットの拠点として、また観光地として定着しつつある。アブー・ザビー (Abu Zabi, 日本では既にアブダビで定着しているため以下アブダビと記述) は、ドバイ同様、アラブ首長国連邦 (United Arab Emirates : UAE) を構成する首長国のひとつで、ドバイから車で約2時間の位置にある。ドバイがUAEの経済的拠点なら、アブダビはUAEの政治的機能を主に担う拠点である。いつ訪問しても建設ラッシュに沸き、異常なほど活気のあるドバイに対し、アブダビは高層ビルの立ち並ぶ落ち着いた近代都市といった風情がある。

本稿では、このアブダビにある「エミレーツ戦略研究調査センター」(The Emirates Center for Strategic Studies and Research, Markaz al-Imārāt lil-Dirāsāt wa al-Buḥūth al-Istrāṭījiyah, 以下ECSSR) について紹介する。1994年に設立されたこの研究所は、幹線道路沿いに位置し、広々とした敷地内には、近年完成したばかりのガラス張りのメイン・ビル、図書館、書店などを併設している。研究所の活動は、会議の開催から研究者の

トレーニング活動など多岐にわたるが、それらがこの新しいビルディングで行われている。

## I 組織の概要

### 1. 設立目的

ECSSRは1994年、政治的リーダーシップによって設立された研究機関で、アラブ世界、特にUAEと湾岸諸国の社会、経済、政治問題について調査研究を行っている。

ECSSRの主な活動目的は、社会の目標とニーズから生じる科学的調査を奨励すること、知的活動の組織化、科学的発展の監督とその意味についての検証、国内の研究者の育成支援とされ、(1) UAEと湾岸諸国の安全保障および経済社会発展に関する調査研究、(2) シンポジウムや会議の開催を通じた研究者間の意見交換の促進とコミュニティー・サービスの提供、(3) トレーニング・プログラムを通じたUAE内の研究者育成の促進と援助、の3点が主な事業として掲げられている。

また、信用できる情報や正確な統計に基づく調査分析を行うことによって、国家の政策立案や意思決定に貢献することも目的のひとつとしており、UAEの各公的機関との協力の下、情報の収集と蓄積、分析を行うとともに、図書館活動、出版活動も行っている。

## 2. 組織構成

組織は、調査部門、コミュニティー・サービス部門、総務部門の3つに大きく分かれている。調査部門は、「戦略研究部」、「経済社会研究部」、「情報部」から成り立っており、またコミュニティー・サービス部門は、「会議部」（会議やシンポジウム、講義やワークショップの企画運営）、「出版部」（出版物の発行・販売、翻訳）、「メディア部」（ニュース・モニタリング、ニュースレターと雑誌の発行）、「UAE図書館」で構成されている。これに加えて「人事部」（人事、採用、トレーニングを担当）、「管理財政部」（財務、広報、IT等を担当）からなる総務部門が存在する。

## II 主な事業

上述のミッションに従い、ECSSRの事業は、調査研究、コミュニティー・サービス、研究者トレーニングの3つに大別される。

### 1. 調査研究活動

前述したように、調査研究活動は、「戦略研究部」、「経済社会研究部」、「情報部」の3部の活動を通して行われている。

戦略研究部では、政策提言や予測的な研究の実施を目的に、特にUAEの安全保障にかかわる事柄について調査分析を行っている。UAE, GCC (Gulf Cooperation Council, 湾岸協力会議)、アラブ世界、アジア、欧米といった地域毎に設置された研究ユニットに加え、UAEの戦略的な政策立案に寄与するため、安全保障や治安を特に研究する軍事研究ユニットがおかれている。

経済社会研究部では、UAEの安定性と安全保障に影響を与えるような経済変化の分析、将来の経済政策の提言、市民の生活水準を維持す

るための計画やプログラムの策定に資することを目的としており、経済分析、エネルギー研究、人口と労働市場研究、社会研究のユニットに分かれている。これらのユニットはそれぞれ、経済政策研究、石油依存体質からの脱却方法、石油やガス市場がUAE経済に与える影響、労働人口研究、石油の発見によりUAEが受けた急激な開発と大量の外国人労働者の流入およびそれらに伴う劇的な社会変化とその影響に関する分析などを行っている。

情報部の任務は、UAEの研究者と意思決定者のための戦略プランニングを効果的に支援する包括的なデータベースの作成にあり、様々な電子媒体および冊子体資料から情報を収集、分類、要約し、保存している。この部署では、国や組織、企業に関する一般的な情報を含むデータベースに加えて、エネルギー、治安、貿易に関するデータベースの構築を行っている。また毎月2回、様々な質問についての意見をウェブ上で募り、その投票結果を公表している。例えば2007年6月末に行われた調査では「ファタハとハマスの継続的な対立が、ガザの西岸からの分離をもたらすと思うか」という質問を設定し、これに対して、48パーセントが「はい」、45パーセントが「いいえ」と回答している（7パーセントは不明）。毎回1000票以上がインターネットを通じて投票され、この投票結果に対する分析が合わせて掲載されている場合もある。

### 2. コミュニティー・サービス

コミュニティー・サービスの主な活動には、会議やシンポジウム、ワークショップ等の開催がある。センターの主な会議としては、Annual ConferenceとAnnual Energy Conferenceがあり、1995年の第1回から2007年までにAnnual Con-

ferenceは12回、Annual Energy Conferenceは13回開かれてきた。また1994年からシンポジウムは22回、ワークショップは37回開かれており、講義については262回開催されている。これらの活動に関しては、過去のタイトルや概要についてウェブサイト上で閲覧することができ、また成果は出版物として発行されている。さらに今後のこうしたイベント情報についても、ウェブサイト上で確認することができる。

ニュース・モニタリングでは、特にUAEの安全保障にとって重要な出来事に関するニュースを収集しており、テレビのニュース番組だけでなくトーク・ショーなども含めた関連番組を記録、保存し、ドキュメンテーションとアーカイブを構築している。

#### (1) 出版物

ECSSRは1994年の設立以来500点以上に及ぶ出版物を発行している。主な出版物としては、アラビア語図書、英語図書に加えて、以下に述べる4種のシリーズ、およびニュースレター類が挙げられる。

モノグラフシリーズはアラビア語の戦略研究シリーズと英語のEmirates Occasional Papersの2種がある。これらは、専門家による査読を経て発行が決定されるもので、UAEと湾岸諸国に関する政治、経済、社会、戦略関連のトピックを扱っている。また国際的な雑誌などに掲載された関連論文に関しては、アラビア語への翻訳権を獲得して翻訳を行い、International Studiesとして出版している。さらに、ECSSRで行われた講義に基づくThe Emirates Lecture Series (英語、アラビア語)も発行されている。

センターの発行している主なニュースレターとしては、まずAkhbār al-Sā'a (News of the Hour,

アラビア語、Editorialのみ英語、週6回発行)が挙げられる。これは、テレビや新聞、ニュース・エージェンシー、インターネット等様々な情報源に基づいて、重要なニュースをカバーしたもので、英語のEditorialについては、過去のものも含めてウェブ上で読むことができる。Āfāq al-Mustaqbal (Future Horizons, アラビア語、月2回発行)はメディア部から発行されている雑誌で、最近のECSSRの活動についてカバーするとともに地域の重要な出来事に関するECSSRの見解について述べることを目的としている。ウェブサイトではPDF版をダウンロードできるが、2000年までしか掲載されていない。また現在、UAEと湾岸に関して重要な戦略的な発展について分析する新シリーズGulf Strategic Reportの発行が企画されている。

これら出版物は、ECSSR内にある書店に加え、UAEをはじめ各国の書店でも販売されており、またウェブサイトを通じた注文もできる。

#### (2) UAE図書館

この図書館は、ECSSRの敷地内の独立した3階建ての建物を占めており、ECSSRのメイン・ビルディングとは連結通路でつながっている。ECSSRの研究ニーズを情報面から支援することを目的として、ECSSRの設立と同時に設置された。まだ現在の新しい建物に引っ越してから日が浅いため、様々なシステムやサービスを整えている途中ということだったが、広々とした閲覧スペースではかなり優雅な気分資料講読ができる。UAE内でも有数の図書館であり、UAEでの研究活動を支援するとともに、UAE内での専門司書の育成や、国内外の図書館や大学、シンクタンクとの協力関係の構築も行っている。

この図書館では、湾岸諸国全般、特にUAEに関する政治、経済、社会、軍事や治安に関する資料を中心に収集を行っている。所蔵資料は、ドキュメント類やレポート類、学位論文、統計、データベース、地図などを含み、合計約18万5000点となっている。英語資料の方がアラビア語資料を上回るため、所蔵資料の大半は日本でも入手できるものだが、UAEの公文書や統計類等、日本ではなかなかアクセスしにくい資料も所蔵している（例えばUAEの官報、年次統計、貿易統計、判例集など）。また目を惹くのは、地図のコレクションで、特に1570年のオスマン帝国地図原版、1574年のアラビア半島地図、1599年のイラン地図などはこの図書館のコレクションの目玉となっている。これらの資料は、貴重書等の一部を除き、ECSSR職員であれば借り出すことができるが、センター外の利用者への貸出サービスはまだ行っておらず、今後の課題とされている。

蔵書については、インターネット上のOPAC (<http://library.ecssr.ac.ae/>) で蔵書検索ができる。また、事前にメール等で問い合わせをすれば、関連主題に関する資料リストの作成および閲覧希望資料の準備を依頼することが可能とのことであった。また複写サービスについてはすべての図書館利用者が利用可能で、非来館者であっても、メールやFAX等で依頼された場合は、郵送またはPDFファイルにした上でメールでの送付を行っている。

その他の図書館活動としては、図書館所蔵の主要文献リストの作成、新着受入資料について知らせるCurrent Awarenessサービスを行っている。また注目されるのが、ウェブサイトで公開されている書評である。これは、ECSSRの

研究者が主な評者となって、中東関連資料に限らず政治、社会、経済に関する資料について紹介しているもので、2004年の4月分までさかのぼってウェブサイト上で読むことができる。

なお、詳しい利用条件等については、アジア経済研究所ウェブサイト ([http://opac.ide.go.jp/region/japanese/middle\\_east/uae\\_federation\\_lib.html](http://opac.ide.go.jp/region/japanese/middle_east/uae_federation_lib.html)) で紹介しているので参照いただきたい。

### 3. トレーニング活動

ECSSRでは、設立以来、国内の調査研究者の育成と能力向上に大きな関心を払ってきた。そのためトレーニングを担当するセクションを設け、トレーニング・プログラムを運営している。

この研究者育成活動の中心はScientific Research Diploma Programで、ECSSRのスタッフまたは他の政府機関のメンバーで学士号を取得した者を対象に開講されている。このコースに在籍する者には、決められた時間数の講義やOn-Job Trainingに出席し、各コースおよびTOEFLにおいて一定以上の評価を得ることが要求される。コース内容は、政治、経済、社会、治安等の各主題に関する講義や調査の方法論に加えて、アラビア語や英語での社会科学論文の講読、調査、執筆およびプレゼンテーション能力の発展、コンピューターやIT技術の習得にも及んでおり、包括的な研究能力の育成が目指されている。

またUAE国籍をもつトレーニング参加者や大学院生に対する奨学金の付与、センター外の研究プロジェクトへの資金提供、客員研究員の受入も行っている。

## おわりに

整備された図書館、発行出版物の点数の多さなどからは、ECSSRの研究に対する意気込みと活発な調査研究活動がうかがわれる。ECSSRは、国内外の研究機関との研究交流も目指しており、国内のアラブ首長国連邦大学 (UAE University) やザイド大学 (Zayed University) をはじめ、アラブ諸国や欧米の大学・研究機関とも研究協力を行っている。ニュース・モニタリングのようなユニークな活動やウェブサイトを通じた積極的な情報発信も注目に値するだろう。こうした大規模な研究所の設立・運営は、UAEの潤沢な資本があって初めて成り立つものである。

過去の出版物や会議、講義のタイトルからは、特に安全保障と国際政治に対するECSSRの強い関心がうかがえる。解決のきざしも見えない紛争だらけの中東において、小国UAEが安全保障と国際政治に大きな関心を寄せるのはもつともであろう。

加えて小国ゆえの悩みとしては、研究上の人的資本においても多くを海外に依存していることが挙げられる。UAEが多くの経済活動を外国人労働者に依存しているのと同様に、ECSSRは多くの海外研究者を招聘しており、ECSSRの活動自体が「外国人」によっても支えられている。人的資本の育成は、人口規模の小さなこの国において課題のひとつであり、その点でもECSSRの事業の柱のひとつにトレーニング活動が据えられたのは頷けるものである。現時点では、ECSSRの研究活動は「国際的」にならざるを得ないわけだが、この小国に湧き出た莫大なオイルマネーが海外からの研究者をも惹き付け、結果的に国際的な研究者間の交流に貢献しているに違いない。

[付記] 本稿の執筆にあたっては、ECSSRウェブサイト (<http://www.ecssr.ac.ae/>)、*Annual Book 2006*をはじめECSSR各種出版物、スタッフとのインタビューから得た情報を参考にした。

(アジア経済研究所前在ダマスカス海外派遣員)